

甲賀駅改築10周年 記念イベント開催

地域の駅として親しまれてきた甲賀駅が平成17年の改築から10周年を迎えます。

甲賀駅は油日駅や寺庄駅と同様に市が駅舎を建設し、JRから委託を受け、市の財産として管理している駅で、乗車券の発売業務や旅客案内なども地域の皆さんにより行われています。

市民の駅であることを再認識していただくとともに、公共交通機関の大切さを見直し、駅が今後のまちづくりの拠点となることをめざして、記念事業を開催します。現在、甲賀駅を育てる会や自治振興会などによる実行委員会が立ち上げられ、準備が進められています。

当日は楽しみながら甲賀駅の魅力を再発見していただけるイベントが計画されています。ぜひ、お出かけください。

■日時

11月3日(火・祝)10時~14時

■場所

JR甲賀駅北口広場

■内容

式典、出店、特産品販売、各種ステージ、トリックアート紹介、忍者衣装貸出、手裏剣投げ など

※詳細は市ホームページなどでお知らせします。



▲忍者が見守る甲賀駅
駅舎内のトリックアートは必見

問い合わせ

公共交通推進室

☎65-0672 / ☎63-4554

未来に走り続ける鉄道

導入された新車両は、信楽焼の温かみや高原の紅葉をイメージした茶褐色を基調にデザインされており、3本の帯ラインは「産・官・民」が一体で鉄道を守り継ぐことを意味しています。

室内は、車窓から四季折々の豊かな自然を効果的に楽しめるように、木目調で統一されています。

また、情報制御装置を備えるとともに、車いすスペースの設置や乗降口のノンステップ化など、お客様を安全に、そして安心・快適に輸送する装備が施されています。

出発式で中嶋市長は「公共交通を基軸においたまちづくりは大変重要な施策であり、信楽高原鐵道も重要な社会資本として、市の発展に資するものでなくてはなりません。新型車両の導入を契機

とし、信楽高原鐵道が、魅力ある甲賀市の観光や文化資源を活かすための重要な鉄軌道として、さらには定住促進対策や少子化対策などを進める。甲賀の国づくりを支える社会インフラとして、皆様のご期待にお応えし、未来に走り続けるものと確信しています」と信楽高原鐵道の将来への期待を述べました。

その後、中嶋市長が国土交通省近畿運輸局鐵道部長や滋賀県知事らとくす球を割り、新車両は9時46分、子ども駅長の合図に合わせ信楽駅を出発しました。

初乗りをした方は、「静かであり心地がよく、デザインも信楽のイメージに合っている」「いつも信楽高原鐵道を利用しているので、新しい車両になってうれしい」と喜びを語りました。

子ども駅長を務めた雲井小学校1年生杉田裕樹さんは、「緊張したけれど楽しかった」と嬉しそうに語ってくれました。



▲高原の山あいを走る新車両

夢と希望を未来につなぐ SKRに新車両導入



安全と快適を確保

信楽高原鐵道に新しい車両が導入されました。「陶都 信楽」の伝統をイメージする茶褐色にデザインされた新車両は、地域住民の交通手段としてだけでなく、甲賀市を訪れる観光客の拡大につながるものと期待が寄せられています。

10月4日に行われた出発式には多くの人が駆けつけ、地域の人々の夢と希望を乗せた新しい車両の出発を喜びました。

信楽高原鐵道は、平成25年4月から、線路や車両などの鉄道施設を甲賀市が保有し、鉄道の運行を信楽高原鐵道(株)が行う、公有民営化による上下分離方式で運営されています。

これにより、信楽高原鐵道(株)としては、施設の維持管理に関する費用負担が軽減され、安全運行と経営改革に専念できるようになり、それぞれの役割分担により、安定した鉄道の維持に努めています。

市では、鉄道施設の老朽更新等を着実に進め、10年間の整備計画により、レールの敷設替えや枕木交換などの線路補修や、電気設備の改良等を実施することとしており、今年度は、所有する4台の車両のうち老朽化した1台を更新し、安全で快適な輸送サービスを確保しました。

また、利用促進と観光需要の喚起につなげるため、信楽高原鐵道(株)では関連グッズの開発や企画切符の販売、さらには鉄道利用を組み込んだ旅行商品を開発して、情報発信力の向上やブランドの構築に努めることとしています。